

## 平成29年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立雀宮南小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、平成29年度「全国学力・学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

### 【調査の概要】

#### 1 目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況等の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

#### 2 調査期日

平成29年4月18日(火)

#### 3 調査対象

小学校 第6学年(国語A・B, 算数A・B, 児童質問紙)

中学校 第3学年(国語A・B, 数学A・B, 生徒質問紙)

#### 4 本校の参加状況

① 国語A 69人 国語B 69人

② 算数A 69人 算数B 69人

#### 5 留意事項

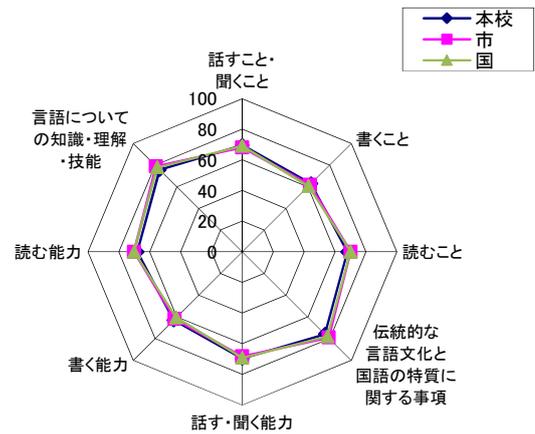
- (1) 本調査は、対象となる学年が限られており、実施教科が国語、算数の2教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、  
「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

# 宇都宮市立雀宮南小学校第6学年【国語】分類・区分別正答率

## ★本年度の国、市と本校の状況

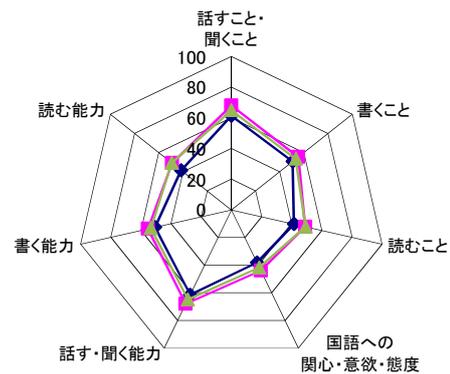
### 【国語A】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	話すこと・聞くこと	69.6	68.2	69.2
	書くこと	63.0	62.0	60.6
	読むこと	68.1	70.2	70.2
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	75.8	79.1	78.0
観点	国語への関心・意欲・態度			
	話す・聞く能力	69.6	68.2	69.2
	書く能力	63.0	62.0	60.6
	読む能力	68.1	70.2	70.2
	言語についての知識・理解・技能	75.8	79.1	78.0



### 【国語B】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	話すこと・聞くこと	61.4	68.0	64.9
	書くこと	50.7	55.3	53.4
	読むこと	41.5	49.0	49.2
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項			
観点	国語への関心・意欲・態度	38.2	43.9	41.7
	話す・聞く能力	61.4	68.0	64.9
	書く能力	50.7	55.3	53.4
	読む能力	41.5	49.0	49.2
	言語についての知識・理解・技能			



## ★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

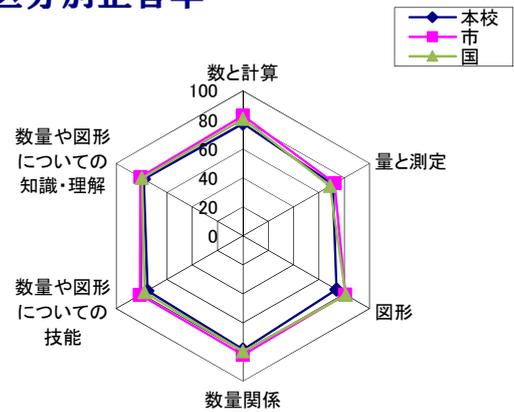
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	○話の内容に対する聞き方の工夫をすることができる。 ●目的に応じ話す順序や適切な言葉遣いで話すことの経験が不足している。 ●スピーチメモを用いて話をしたり、話し手の意図を捉えながら聞いたりすることに抵抗がある児童が見られる。	○事柄を整理したメモを作って説明する活動やメモを取りながら話を聞いたりする活動を継続的に取り入れる。 ○「話すポイント・聞くポイント」の合言葉をもとに、これまでの指導を継続して学力の定着を図る。 ○話し手の意図を意識して聞き、自分の考えを述べるような学習の展開を図る。
書くこと	○目的や意図に応じ、内容の中心を明確にして書くことができる。 ●手紙の構成を理解し、後付けを書くことが苦手な児童がいる。	○事実と意見とを書き分けることをこれまで同様に意識して取り組ませていく。また、文章構成や事象の整理を明確に示して指導していく。 ○手紙や意見文の型を示して、場面に応じて繰り返し練習していく中で、書くことの定着を図る。
読むこと	○人物の意図を想像し、想像豊かに読み取り、背景や情景を自分なりにイメージすることができる。 ●事実や意見の関係を押さえ、考えたことを具体的な言葉で表現したり、説明したりすることに習熟が望まれる。 ●物語を読み、具体的な叙述をもとに理由を明確にして自分の考えをまとめることが苦手な児童がいる。	○読み取ったことを音読指導に生かし、豊かな感性を磨いていく。 ○読む目的を明確にして学習に取り組み、ポイントを絞った言語活動を取り入れ、書くことや話すこと・聞くこととの連携を図った授業の展開に努める。 ○叙述に即して情景や登場人物の心情をとらえる学習を今後も継続して取り入れていく。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	○漢字を読むことに関心をもち、その意味や使い方を理解している。 ●学年配当漢字を書くことに個人差があり、十分に理解している児童もいるが、一方で漢字に苦手意識をもつ児童が見られる。	○漢字を正確に読み書きできるようにするために、ドリル学習や自主学習の量を確保し、意識的に漢字を使用できるように日常的な指導を行う。 ○朝の学習テストを利用し、既習漢字を繰り返し書く機会を設ける。 ○漢字の復習を定期的に行い習熟を図るとともに、熟語や文章で練習していく。

# 宇都宮市立雀宮南小学校第6学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

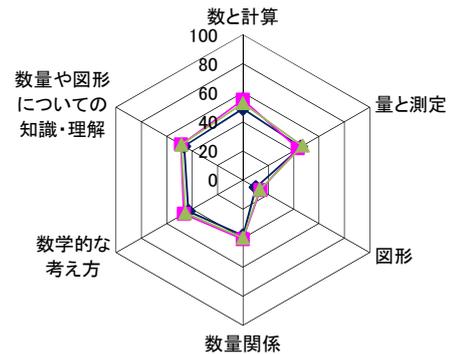
## 【算数A】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	数と計算	77.5	82.9	80.6
	量と測定	71.0	72.5	68.8
	図形	73.9	80.8	81.1
	数量関係	78.3	81.9	79.6
観点	算数への関心・意欲・態度			
	数学的な考え方			
	数量や図形についての技能	75.4	81.2	77.7
	数量や図形についての知識・理解	78.3	80.9	79.7



## 【算数B】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	数と計算	49.0	55.1	52.8
	量と測定	45.7	43.4	47.0
	図形	10.1	13.8	13.2
	数量関係	38.2	40.8	40.0
観点	算数への関心・意欲・態度			
	数学的な考え方	43.0	46.5	45.4
	数量や図形についての技能			
	数量や図形についての知識・理解	46.4	48.8	48.6



## ★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	○小数の積や加法における検算の仕方を理解している。 ●四則計算の位取りに対する意識化が図られていない。 ●加法と乗法の混合した整数や小数の計算の仕方を理解していない児童が見られる。	・分数や小数の計算の仕方の復習を繰り返して行い、児童一人一人の実態に合わせて定着を図っていく。 ・加法・減法と乗法の筆算の位の書き方を確認するとともに、筆算の意味を再確認し取り組ませていく。 ・問題をよく読み、問題の意図する内容を理解して適切に処理したりすることができるように類題を与えて取り組ませ、習熟を図る。
量と測定	○図形の面積を求める問題では、底辺と高さの関係をよく理解している。 ●掲示された資料から求め方や理由を記述するなど、記述して答える問題に弱い傾向が見られる。	・面積を求めるための算数的活動を行ったことで、習熟が図られているので、今後も継続して算数的な活動を意図的に取り入れていく。 ・課題解決のために見通しをもたせたり、解決方法を話し合ったりする中から、自分なりの意見をもち記述したり発表したりする経験を積みませ、具体的な場で指導していく。
図形	○立体の面と面の位置や三角形の性質を理解し、構成する辺の組み合わせや作図の方法が身に付いている。 ●円の中心・半径・直径の意味は捉えているものの、半径と直径の関係などが理解できていない児童が見られる。	・コンパスの使い方などの作図するための基本は理解しているので、半径や直径の言葉と図形とを関連付けて理解できるように復習し、習熟を図る。
数量関係	○グラフに表されている事柄を読み取ることや式で表現された数量の関係については理解することができる。 ●示された割合から、基準量と比較量の関係を図で表したり、身近な物に置き換えた基準量と割合を基に比較量を判断してその根拠を記述したりすることが苦手である。	・問題の状況を丁寧に読み解き、その関係を図や数直線等に表示して捉えられるようにし、さらにそれをもとに式を立てられるように、さまざまな表現方法から考えるように授業を展開するとともに問題演習を繰り返す行う。

## 宇都宮市立雀宮南小学校 第6学年 児童質問紙

### ★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

- 「学校は楽しいか」という質問に対して「楽しい」と回答した児童の割合は全国肯定回答を7.5ポイント上回っている。
- 「国語が好き」と回答した児童は31.4%で、全国の肯定回答率を5.9ポイント上回っていた。また、「算数が好き」と回答した児童は48.6%で、10.1ポイント上回った。本校の児童は、国語科・算数科が好きという傾向にある。
- 「国語の授業の内容がよくわかる」と回答した児童が41.4%で、全国を2.5ポイント上回った。
- 「失敗を恐れないで挑戦しているか」の問いに対して、30.2%の児童が「当てはまる」と回答していて、全国平均を3.3ポイント上回っている。
- 「将来の夢や目標をもっているか」の問いに、71.4%の児童が「ある」と回答しており、全国平均を上回っている。自分の描く目標や夢をしっかりとって学校生活を送っている児童が多いことがわかった。
- 家庭学習の時間が少なく、テレビやDVDを見る時間が全国平均より長い傾向が見られる。
- 「人が困っているときは、進んで助けていますか」の質問に対しての肯定回答率は37.1%で、全国平均を1.4ポイント下回っている。今後は、教育活動のあらゆる場を捉えて指導をし、きまりを守り、思いやりをもって行動できるようにしていきたい。

## 宇都宮市立雀宮南小学校（第6学年） 学力向上に向けた学校全体での取組

### ★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
授業におけるまとめ・振り返りの充実	学習のめあてや振り返りなどを意図的に位置づけて、児童が見通しをもって学習に取り組める授業を構築する。	「授業の最後に学習したことを振り返る活動をよく行ったか」の質問に対して、肯定的に回答する児童の割合が全国平均と比べて4ポイント上回っている。
板書指導とノート指導の充実	学習の流れが分かるような板書を行うとともに、児童の主体性を生かしたノート指導に努める。	「授業で扱うノートには学習の目標とまとめを書いている」という質問に対して、肯定的に回答した児童の割合が70%であり、全国平均を上回っている。
ユニバーサルデザインを意識した授業づくり	ユニバーサルデザインを意識して児童一人一人のニーズに合った授業を行うとともに、見通しをもって児童が授業に取り組める環境を整える。	「授業では学級やグループの中で自分たちで課題を立てて、その解決に向けて情報を集め、話し合いながら整理して、発表するなどの学習活動に取り組んでいるか」の質問に対して肯定的に回答した児童が全国平均より12.5ポイントと大きく上回っている。
話し合い活動の充実	基礎的な学習習慣の定着を図るとともに、それらを活用した課題解決学習を取り入れ、ペア学習やグループ学習による話し合い活動などを充実させる。	「授業で友達との間で話し合い活動をよく行っていたか」という質問に対して、肯定的に回答した児童の割合が全国平均を上回っている。
授業の振り返りと家庭学習の連携	授業の振り返りの時間の中で、家庭学習と授業の関連を意識できるようなシートを活用し、授業と家庭学習を連携できるようにしていくとともに、家庭学習ノートを用いて具体的な内容ややり方を示していく。	「家で、学校の宿題をしているか」の質問に対して、肯定的に回答した児童の割合が84.3%だが、「家で自分で計画を立てて勉強している」の質問には、25.7%と低い割合になっている。

### ★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
算数における学力の向上	算数の学力差の解消に向けた指導の工夫	定着度に二極化の傾向が認められるので、児童の理解度に合わせた授業展開の工夫を行う。 習熟度別学習や個別指導の充実を図り、基礎・基本的知識・技能の定着に努める。 つまずきの状況に応じて学年を遡って復習できるように資料やプリント等を準備して取り組ませるとともに、既習事項を扱った課題を効果的に与え、折に触れて復習できるようにする。